

太陽光発電の普及

問 耕作放棄地を自然エネルギー供給地特区に認定し、農地法の転用がしやすいよう研究しては。

答 特区は難しいが、個別の案件で、太陽光パネルの設置を目的とした転用申請があれば、周辺農地への影響や必要性などを審査し、平成26年度から28年度までの3年間で66件許可している。

高南幼・袋井南幼・袋井南保育所の統合

問 高南地区のまちづくりのこととして、近くに幼稚園や保育所があることが、子育て世代の移住を呼び込む社会的インフラの一つと考えるが、どうか。

答 幼稚園や保育所などの施設は、若い世代を呼び込み、安心して子どもを産み育て、定住を促進させるなど、地域社会の活性化につながるかと考える。



袋井駅南口市有地

満杯の袋井駅南口駐輪場

問 今後、400台収容の駐輪場が完成すると聞いているが、現状の仮置き場は満杯で、利用者・管理人双方が困っている。暫定的に現在使われていない南口東側の市有地を仮設置場にできないか。

答 北口駐輪場に空きスペースがある。南口広場東側にさらに設置しても、北からの利用者を誘導することになる。現状でよく考える。

国際化による「ふくろいスタイル」とは

問 ラグビーW杯2019で醸成される市の国際化の機運の位置づけは。

答 大都市と異なり、宿泊施設が少ない課題はあるが、過去に民泊で受け入れた経験を生かし、最も交流が深まるホームステイの実施を目指したい。市民参加で進めることが本市のスタイルになると考える。

袋井市の英語教育は

問 英検支援など英語熱の高まりに対し、子どもたちの英語活動の内容は。

答 小学校低学年からDVD教材を使うなど、英語活動を先行実施する。小中一貫教育の中で「親しむ」ことから「学び」への移行をスムーズにし、英語力の定着を目指したい。

中央南地域の土地利用の方向性は

問 市全域の土地利用に関する基本構想の中で、浅羽北地区から笠原地区へ魅力ある地域づくりの連携は。

答 袋井駅周辺と連携を深め、浅羽北地区を「地域拠点」としての機能強化を図りたい。笠原地区の「小笠山麓開発事業」は年内を目途に企業誘致に取り組みたい。



ALTによる小学校の英語授業